

【ディプロマポリシー（学位授与の方針）】

○前期博士課程

修士の学位は、一般的並びに専門的教養の基礎の上に広い視野に立って専攻分野を研究し、清深な学識と研究能力を身につけた者に授与されます。修士の学位を授与されるためには、所定の単位を取得するほか、学位論文（修士論文もしくは課題研究論文）を提出し、審査に合格しなければなりません。

※前期博士課程の修了必要単位は 30 単位。共通科目を 2 単位以上、分野専門科目を 8 単位以上、指導教員の分野専門演習科目を 8 単位、取得する必要があります。

○後期博士課程

博士の学位は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力を身につけた者、又は高度に専門的な業務に従事するに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有する者に授与されます。後期博士課程を修了し、博士の学位を取得するためには、所定の研究指導を受け、かつ、所定の単位を修得のうえ、学位論文（博士論文）を提出し、審査に合格しなければなりません。

※後期博士課程の修了必要単位は 18 単位。指導教員の分野専門演習科目を 12 単位、取得する必要があります。

【カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）】

○前期博士課程

教育課程は共通科目、分野専門科目、分野専門演習科目から構成されています。教育課程の特色は、経営学・商学・会計学分野の科目を再編成し、学生が各自の研究テーマに合わせて複数の専門知識を総合的に履修できるような科目体系を提示したことにあります。「経営」「会計」「金融・流通」「産業・地域」といった既存の学問体系に加えて、「戦略経営」「経営情報」「国際ビジネス」「産業創造」「パブリック・環境経営」という今日の社会的ニーズに適合させる形に科目を分類し、たとえば「金融・流通」及び「国際ビジネス」、「会計」及び「パブリック・環境経営」というように多様な履修ができるようにしてあります。

○後期博士課程

教育課程は分野専門科目、分野専門演習科目から構成されています。主として、大学や研究機関に勤務する研究者を養成するため、徹底した少人数、マンツーマン教育を行います。前期博士課程で学んだ成果を基礎に、専門分野についてより深く学び、博士論文を作成することになります。学生は博士論文のテーマにふさわしい研究指導教員のもとで、3 年間、博士論文作成の指導を受けることができます。また、研究指導教員による指導に加えて、2 名の助言教員からも指導を受けることで幅広く複合的な視野を持った人材を育成しようと考えています。

【アドミッションポリシー(入学受入の方針)】

(求める学生像)

「考える実学」教育の方針のもと、実社会について旺盛な探求心と世界的視野を持って学修し、その成果をもって経済社会の発展に積極的に貢献しようとする意欲と能力のある、人間性豊かな人を求めます。

〈入学者選抜の基本方針〉

○前期博士課程一般入試

筆答試験では経営や会計、産業の諸領域の基礎理論および外国語にかんする習得について、口述試験では前期博士課程における専門的あるいは学際的知識の学修に対応できる意欲と能力について確認し、出願書類等も踏まえて総合的に評価します。

○前期博士課程外国人留学生特別選抜

筆答試験では経営や会計、産業の諸領域の基礎理論および外国語にかんする習得について、口述試験では前期博士課程における専門的あるいは学際的知識の学修に対応できる意欲と能力について確認し、出願書類等も踏まえて総合的に評価します。

○前期博士課程推薦入試

学業成績が極めて優秀であり、研究者を目指し、在籍している大学の学長等の推薦を受けられる学生について、口述試験では前期博士課程における専門的あるいは学際的知識の学修に対応できる意欲と能力について確認し、出願書類等も踏まえて総合的に評価します。

○社会人プロジェクト特別選抜

出願書類および口述試験を通じて、毎年度設定されるプロジェクトテーマと受験者の実務経験との関連性、当該テーマに関する専門的あるいは学際的知識の学修に対応できる意欲と能力について確認し、総合的に評価します。

○後期博士課程一般入試等

筆答試験では経営、会計、産業等にかかわる専門分野の外国語にかんする習得について、口述試験では修士論文を含む出願書類にもとづいて専門的あるいは学際的知識の習得と能力を確認し、総合的に評価します。